平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） 416 ※記入不要	提案機関名	県央地区農政事務所

要望問題　生物多様性に配慮した緑化資材の開発

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】

平成１４年度から丹沢大山保全対策の一環として、治山事業により高標高地の荒廃地復旧に取り組むことなったが、事業対象となる地域は国定公園の特別保護地区である。したがって、市販の一般的な緑化資材を施工するには問題があると考えられる。

近年、植物の成長を助ける微生物を活用した緑化資材などが開発されている。今後の活用を期待したいところであるが、使用微生物の由来等が不明であることから、当該資材の施工には現段階では踏み切れない。

そこで、ブナ林などの現地に棲息する微生物を活用した緑化資材の開発研究について、要望するものである。

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	①研究所対応　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	自然環境保全センター研究部
部　　署：	森林資源グループ
対応区分	①実施　②実施中　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可
試験研究課題名	（①、②、④の場合） 森林微生物の保全と活性化に関する研究（H16 ～ 20）

対応の内容等

森林微生物を活用する技術開発については、H15 年度までに菌根菌資材を併用可能な法面緑化資材の基礎的 data 収集を実施している。また、H16 年度より VA 菌根菌の利用可能性を検討するため、基礎的知見調査を実施予定である。

そこで、本要望については当該課題の中で基礎的研究を実施したい。そして、関連する機関と連携を図り、資材の実用化についてサポートしていきたい。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内

備　考　VA 菌根菌の調査・同定・増殖や緑化資材の開発には森林総研や法面緑化会社との連携が必要である。